

PLAN NEWS

プラン・ニュース [2024 Autumn] NO. 127

特集

国際ガールズ・デー 平和な世界にむけて心をひとつに

プラン・スポンサーシップ

チャイルド訪問

(ベトナム)

プラン・グローバルサポーター

若者の未来を変える

ロヒンギャ難民の識字教育

(バングラデシュ)



Until we are all equal

国際ガールズ・デー

平和な世界にむけて心をひとつに



増え続ける紛争

10月11日は国際ガールズ・デー。女の子の権利やエンパワメントの促進を、広く国際社会に呼びかける日です。プランは、毎年この日に「世界ガールズ・レポート」を発表しています。今年のテーマは「紛争下の女の子たち」です。

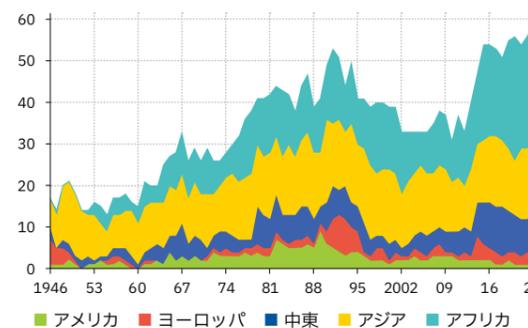
ウクライナやガザだけでなく、この瞬間も日本のメディアでは取り上げられない紛争が世界中で繰り返されています。UCDP*の報告によると、2023年に起きた国家が関連する紛争は59件、国家が関連しない紛争や一方的な攻撃によるものを含めると200件近くになるそうです。

紛争下では、多くの人々が住む場所を追われ、財産を失い、避難先での劣悪な生活を強いられます。なかでも子どもたちは、教育の機会を失い、悲惨な光景を目撃したり、家族を失ったりして心に傷を負ってしまう場合が少なくありません。

プランが今年発表した「世界ガールズ・レポート」は、紛争が15〜24歳の女の子にどのような影響を与えているかについて、ウクライナやスーダンなど紛争下にある10カ国の若者たちへ聞き取り調査をしたもの

です。その結果、紛争がもたらす影響の度合いには、明らかな男女差があることが分かりました。例えば、食料や水、インターネット等の情報へのアクセス制限や、日常生活で危険を感じる頻度は女の子のほうが高い傾向にありました。一方、男の子は女の子より武装グループと結びつく可能性が高く、教育の機会を逃しやすいことが分かりました。男の子の徴兵・徴用、あるいは女の子に対するレイプ、強制結婚、性的搾取は、子どもに対する重大な権利侵害でもたらします。プランの調査に参加した若者たちは、治安の改善やトラウマを抱えた人々への心理社会的支援、そして教育支援を望んでいます。

国家が関連する紛争件数の推移



<https://ucdp.uu.se/downloads/charts/>

* スウェーデンにあるウプサラ大学平和紛争研究学部・紛争データプログラム (UCDP)



祖母や叔母とともにチャドへ逃れたカウサルさん



紛争により国内避難民となったムナさん

スーダン 紛争下の女の子たち

2023年4月15日、首都ハルツームで発生した武力衝突により、810万人が家を追われたスーダンは、世界最大の避難民危機と呼ばれる状況に陥っています。女の子たちの声をお聞きください。

「紛争が始まり、家族と逃げる途中、何度も武装グループに襲われ、父と兄は行方不明になりました。母は殺されました。私は祖母と叔母に引きずられて、チャドの難民キャンプにたどり着きました。叔母は妊娠していて、銃声が聞こえるなかで出産しました。家族のこと、母のことを思うと涙が止まりません。一番つらい

のは、私だけが取り残されたことです。(カウサルさん 16歳)」「あの日の朝、私は母と繁華街にいました。激しい爆発音が聞こえたので、慌てて逃げました。紛争が激しくなり、私と家族は安全な場所へ逃げるための車を探して歩き続けました。運よくトラックを見つけて出発しましたが、兵士に襲われそうになるなど危険を感じました。その後、弟が病気になる、母と親戚の家に身を寄せています。私は避難所となっている学校で過ごしています。この先どうなるかわかりません。とにかく紛争が終わって全てが落ち着き、故郷に帰りたいと願っています。母はもうスーダンにいたくないと言っています。(ムナさん 13歳)」

平和な世界にむけて心をひとつに

世界各所で激しい紛争が多発し、これまで以上に対立と分断が顕著になっている今、世界中の人々から平和を求める声が高まっています。日本でも、社会のさまざまなところに不公平や不平等が存在しています。

社会が不安定になると、まささきに影響を受けるのが、日ごろから差別や偏見の対象となり弱い立場に置かれがちな女の子たちです。今年の国際ガールズ・デーでは、日本の女の子たちに自らが直面している課題に対し声をあげリーダーシップを発揮することの大切さを伝えるとともに、遠く離れた場所で苦しんでいる同世代の女の子たちに心を寄せ、ともに平和な世界を目指すため日本の私たちにできることを考える機会にしたいと思います。



国際ガールズ・デーイベント

「PLAN GIRLS MOVEMENT 2024～私の声が未来をつくる」

国際ガールズ・デー当日に「女の子のエンパワメント」の場としてのイベントを開催します。女の子が日常生活の中で勇気をもってあげた声や周囲にもたらした変化、言葉を通じて人とつながりを感じた経験などを表現したコンテンツを展開しました。イベントでは、優秀作品に「プラン・ガールズ・アワード」を授与すると同時に、作品をガールズ・リーダーシップの具体的な事例として紹介します。

開催日時：2024年10月11日(金)
16:00～19:00
開催場所：スパイラルホール(表参道)
募集人数：50名(25歳以下の女の子 先着順)
締め切り：2024年10月9日(水) 17:00まで



詳細はこちらから

Bangladesh 角田光代さんが訪れた 「ロヒンギャ難民の識字教育」 プロジェクト



老朽化が著しいロヒンギャ難民キャンプ

2024年6月、作家でプランの支援者でもある角田光代さんが、プランの活動地域を視察訪問されました。その様子を訪問に同行した内海職員がお伝えします。

「ロヒンギャに
希望はありますか？」

視察の最終日、角田さんはプランの現地職員に問いかけました。職員は、「国際社会にロヒンギャの人権を訴えるリーダーが必要で、教育を受けた者の中からリーダーが生まれる、だから希望は教育にある」と答えました。

6月の半ば、角田さんは100万人が暮らし世界最大ともいわれるロヒンギャ難民キャンプを訪れました。プランが支援する32カ所の男女別識字クラスでは15歳から24歳の若者960人が、英語とミャンマー語で読み書き計算（識字）を学んでいます。市民権（国籍）を持たないロヒンギャはミャンマーで教育を制限され、男性の78%、女性の98%は文字の読み書きができません。プランの教育支援を通して、これまでに計5,600人の若者が識字能力を身につけました。

プランが開発した教材を使った授業

角田さんは、まず男性向けの識字クラスを訪れました。竹とビニールで作られた識字クラスの室内は蒸し暑く、汗が噴き出てきます。英語の



識字クラスの教室

読み書きの授業では、教師が読み上げた英単語を、男の子たちが元気に復唱します。習った単語を組み合わせて、支援団体にニーズを伝える例文が完成しました。プランが開発したこの教材はキャンプでの生活を踏まえた内容で、その実用性が評価され他団体でも使用されています。

「夢は何ですか？」

角田さんが声をかけると、一人の男の子が「作家になりたい」と言いました。私は初めて耳にした言葉に驚きました。大抵は、身近な教師か

ロヒンギャを忘れられた
難民にしないために

識字クラスからの帰り道は、ボロボロになった仮設住居が見渡す限りに広がり、先ほどの希望をかき消すほどの厳しい現実を突きつけられました。2017年に発生したロヒンギャ危機が長期化するにつれ、国際社会の支援は縮小し、ロヒンギャを取り巻く環境は過酷を極めています。帰国後、角田さんは「ロヒンギャを忘れられた難民にしない」と語られました。私もロヒンギャのために何ができるのか葛藤し続ける日々です。

レポート…内海摩耶職員



プランが開発した教材を持つ女の子

女の子にとっての
識字の重要性

以前は宗教上の理由から外出を制限されていた女の子たちが、週に4回識字クラスに通います。クラスには、エンジニアになりたいと力強く語る女の子がいました。また、ある女の子は「もっと早く識字クラスに参加できていたら、結婚はしなかった」と話しました。彼女は現在17歳、つまり児童婚でした。私にとってその言葉は重く響きましたが、これから彼女は周囲の女の子たちを児童婚から守ってくれるだろうとも感じました。



作家になりたいと語る男子



プロジェクトに参加する若者と対話する角田さん(右)

国際ガールズ・デー2024 オンラインイベント 「角田光代さんが出会った ロヒンギャの女の子たち」

日時：2024年10月22日(火)
20:00~21:15
場所：オンライン (Zoom Webinar)

今回のイベントでは、ロヒンギャ難民キャンプで角田さんが出会った学ぶ喜びにあふれる女の子たちの姿とともに、母国ミャンマーでは迫害され、命からがら逃れた隣国 Bangladeshでも厳しい避難生活を強いられているロヒンギャの人々の現状をお伝えいたします。



詳細は
こちらから

難民の女の子と
話す角田さん

illustration by Noriyuki Goto



Bangladesh

「ロヒンギャ難民の識字教育」プロジェクト 若者の未来を変える 「おばさん」の夢

プラン・インターナショナルは、 Bangladesh の難民キャンプに暮らすロヒンギャの若者たちを対象に、識字教育プロジェクトを実施しています。読み書きや計算を学んだことがない若者たちが、継続して教育を受けられる体制づくりを目指しています。



42 歳のタミダはミャンマーで裕福な家庭に生まれました。6人のきょうだいのなかで一人だけ女の子だったタミダは、ロヒンギャの家庭には珍しく、女の子ながらも公立学校に通い、英語とミャンマー語を学びました。しかし、ほかの兄弟は学校に通い続けるなか、タミダが学校に通えたのは4年間だけ。18歳になる前にお金持ちの家からの縁談があり、結婚させられました。

タ ミダは5人の娘と2人の息子を出産しました。しかし2017年、ミャンマーのラカイン州で暴動が勃発。末の息子は足に障害があるため、タミダがずっと背負って逃げました。移動の途中、暑さと空腹により長男は亡くなり、タミダと家族は泣く泣く長男を途中の丘に埋葬し、 Bangladesh を目指しました。



これからの地域社会で重要な役割を果たす若者に教育を

ナズルル・イズラムさん (パートナー団体/教育テクニカルオフィサー)



私は2021年から、4つある対象キャンプの1つを担当し、識字クラス8カ所の運営管理、識字プログラムの進捗管理や難民ボランティアの人材育成に携わっています。以前は15歳から24歳の若者を対象にしたプロジェクトは他にありませんでした。教育の機会に恵まれないものの、地域社会で重要な役割を果たす可能性を持った若者世代と手を携える必要性を感じました。

私の担当キャンプでは、過去2年間で全員が卒業し、そのうち30% (137人) が人道支援団体の有償ボランティアとして活躍しています。前進している兆しが、私の意欲の源泉です。この取り組みにお力添えくださる日本の皆さまに心から感謝を申し上げます。



難 民キャンプに到着し、しばらくすると若者を対象にした識字教育のための有償ボランティアを探していることを聞きました。タミダは自分が仕事をしてお金を稼ぐというのを想像したことはありませんでしたが、読み書きができるロヒンギャの女性は珍しく、お金も必要だったのでボランティアに応募することになりました。



タ ミダの仕事は、親しみをこめて「おばさん (Auntie)」と呼ばれています。「おばさん」の役割は、識字教育に通う女の子のサポートです。女の子たちが識字クラスに通えるように家族を説得したり、生理や家事・育児のために欠席が続く女の子の家庭を訪問したりします。ほかに、女性教師のサポートや、女子教育の重要性を啓発する役割も担っています。

タ ミダの娘たちも読み書きを学びはじめ、足が不自由な末の息子も、プランや周りのサポートを得て識字教室に通うことができるようになりました。ミャンマーにいた頃は女の子たちが学ぶ姿をあまり見ることがなかったタミダは、彼女たちの勉強への熱意に圧倒されています。そして、いつか母国ミャンマーに戻り、すべての子どもたちが一緒に学校に通い、息子が障害のない人と同じように生活できることを祈っています。

プラン・グローバルサポーターのご支援をお願いいたします

- 若者の未来を変える
「ロヒンギャ難民の識字教育」プロジェクト (Bangladesh)

※このプロジェクトは、ジャパン・プラットフォーム (JPF) の支援のもと実施しています。



詳細はこちら





小学校では、生徒にサッカーボールや文房具をプレゼント



子育てグループの活動の様子も見学しました

瀧山さんの訪問スケジュール

2024年 5月17日(金)～ 19日(日)	マレーシアを出発、 ベトナムへ到着 観光や移動を経て、 コントゥムに到着
5月20日(月) 8:00- 9:00	ホテルにプラン職員が お迎え チャイルドが住む コミュニティへ移動
9:00-11:00	プランが支援している中学校 でプログラムを視察。チャイ ルドや生徒たちとの交流
11:00-13:00	校内でチャイルドとその家族 と面会、昼食
13:00-14:30	幼稚園を視察。園児たちと 交流
14:30-15:30	村の子育てグループの活動 を視察
5月21日(火)～ 22日(水)	ベトナムを出国し、 マレーシアに帰国

てきました。プラン・スポンサー
シップを続けていて本当に良かった
と感じます。

また、ベトナムの村に住む人々が、
日本の私たちと同じようにジェン
ダー平等について真剣に考えている

姿に、深く感動しました。寄付は一
部のお金持ちが恵まれない人に施す
ものではなく、同じ目線に立つてで
きるもの。異なる場所に住む友だち
の未来を応援するような、温かい気
持ちでできるものだと思います。

友だちを応援するような気持ちで寄付を続けたい

ベトナムの チャイルドを訪ねて

教育関係の仕事をしている瀧山由生奈さんは、現在マレーシアに留学中です。留学先から、ベトナムのコントゥム活動地域に住むチャイルドを訪問しました。現地での温かい交流や活動の様子をお届けします。



緊張している様子のチャイルドの
イーちゃん



コントゥム活動地域について
プラン・インターナショナルは1993年
からベトナムで活動を開始。コントゥム
活動地域のチャイルドは約6,000人、う
ち約800人が日本のスポンサーを持つ
チャイルドです。この地域では5歳未満
の子どもたちの発育に課題があるため、
2023年は保護者約3,000人と子どもた
ち約5,000人を対象に、栄養に関する
支援を重点的に行いました。また、子
どもや若者のための学習環境改善を目
指し、2つの図書館を建設しました。



プランが支援している幼稚園を訪れて、先生たちと一緒に

プラン・スポンサーシップに関する変更のお知らせ

● チャイルドへのお手紙とギフトに関する変更

今後は、すべてのお手紙をオンラインで現
地事務所に送ります。事務局にご郵送いた
だく場合でも、すべてスキャンデータとして
オンラインで送信するため、お手紙の原本は現
地事務所には送られません。チャイルドへの
ギフトやカード類などはお送りできなくな

りますので、ご留意ください。輸送をはじめ
とするさまざまなコストを節約し、チャイル
ドのコミュニティでより多くのプロジェクト
を実施するため、このような変更となりました。
引き続き、チャイルドへのお手紙はぜひ
オンラインでお送りください。



チャイルドのお
手紙について
はこちら

● チャイルドの「一年の歩み」に関する変更

郵送コストや紙資源の削減に対応するため、
今後、チャイルドの「一年の歩み」のサイズを
変更する予定です。チャイルドに関する情報
量は変わりません。引き続き「一年の歩み」で
チャイルドと地域の情報をご覧ください。ま
た、より手軽にお読みいただき、スマートフォ
ンやPCからいつでも確認できる「マイ・プラン・
ページ」もぜひご利用ください。



「一年の歩み」は、A4サイズになります



マイ・プラン・
ページはこちら

駆け寄ってハグしてくれた
チャイルドのイーちゃんに会った
とき、私はとても嬉しかったので
すが、彼女は緊張でいっぱいでした。
母親が「何か反応しなさい」と言う
ほど、ガチガチに固まっていたので
す。しかし、プラン職員の方が上手
にフォローしてくださり、お菓子を
一緒に食べたりしているうちに、だ
んだん緊張がほぐれてきたようで
す。最後には、突然駆け寄ってきてハグ
してくれました。彼女がものすごく
勇気を出してくれたのだと思い、と
ても嬉しかったです。手紙で交流し
ていたチャイルドとその家族に実際
に会えたことは、他のどんな旅行で
も体験できない素晴らしい経験とな
りました。

訪問を通して、プランの活動が、
教育や知識を与えるだけで終わるも
のではないことがよくわかりました。
現地の人たちがコミュニティを良く
していくために能動的に活動できる
よう、プランがサポートしているの
です。子育てグループを訪問した際、
離乳食の作り方を教えていましたが、
それも外部の人ではなく、料理が上
手な母親が先生役です。誰かにただ
助けてもらうのではなく、自分たち
で何とかしようという思いが伝わっ

交通事故をきっかけに、 学校建設の夢の実現を決意

Aさん

プラン・インターナショナルの「一口100万円プロジェクト」に寄付を決めたのは、通

支援のさまざまなカタチ

一口100万円 プロジェクト

Vol.8

ひとつのプロジェクトを
複数の方々と一緒に支援

**挫折、そして交通事故を
経て支援を決めた**



一口100万円プロジェクトに加えて、プラン・スポンサーシップでインドネシアの女の子と交流しているAさん

昔、テレビで途上国の子どもたちに学校を建てて教育支援をする番組を見て、いつか自分も同じことをしたいと願うようになりしました。やがてロースクールに通い弁護士を目指しましたが、挫折して途中で諦めました。そんななかで、弁護士として活躍し輝いている友人たちと同じように、自分も何か社会に貢献できる方法はないかと模索するようになりしました。考え抜いた末に、途上国の子どもたちを応援したいという思いを再確認し、少額から寄付を始めることにしました。



完成した教室にプレートを設置(スーダン)



学校の落成式に集まった女の子たち(スーダン)

Aさんが支援した一口100万円プロジェクト 「子どもの教育と女の子を古い慣習から守る」 (スーダン)

個人や企業からの複数のご支援により、子どもたちが安全で衛生的な環境で学べるよう、教室や衛生施設を建設しました。また、子どもたち、特に女の子たちが女性性器切除(FGM)や早すぎる結婚をすることなく、安全な環境で質の高い基礎教育を受けられるようジェンダー平等の意識啓発を行いました。プロジェクト対象者：子どもたち(2,090人)、教師や保護者など(1,153人)

株式会社イトーヨーカ堂

1円から参加できる社会貢献 全店舗のレジに募金箱を設置

サステナビリティ推進部

花田あやかさん



全国のイトーヨーカドー・ヨーク店舗のレジには、通年で募金箱が設置されていることをご存知ですか? 2016年に、総合スーパーとして国内で初めてこの取り組みを始めました。イトーヨーカ堂は、創業以来、「お客様、取引先、株主、社員に信頼される誠実な企業でありたい」という社是を掲げています。日々の暮らしに寄り添う生活インフラとして、営業活動だけでなく地域に根ざした店舗でありたい、地域のお客様と一体となった店づくりを目指したいという思いを大切にしてきました。そうしたなかで、お客様に代わって社会貢献の窓口となれるよう、レジに募金箱を設置す

店舗のレジが
社会貢献の窓口



2023年の募金は「食料危機下の子どもたちの栄養改善」プロジェクト(スーダン)に充てられました



2023年の募金箱。募金の全額がプランの活動に寄付されました

ることにしました。お買い物のついでにお釣りを入れる感覚で、1円から気軽に参加できる社会貢献活動として、多くのお客様にご協力いただいています。将来的には、キャッシュレス決済にも対応できるように募金方法も考えていきたいと思っています。

**募金箱から始まる
お客様との交流**

募金箱を通じて、お客様と従業員の間に交流が生まれること

もあります。例えば、毎月高額の寄付をしてくださるご年配のお客様がいらっしゃいました。レジの従業員がそのお客様に「今日もありがとうございます」「最近体調はいかがですか」と声をかけることで、お買い物の感謝だけでなく、徐々に会話が進むようになりました。地域のお客様とより親密な関係を築くことができました。このような、募金箱がもたらす副次的な効果も大切にしていきたいです。

集まった募金の寄付先は、3カ月ごとに変更されています。世の中的情勢や求められることは常に変化しているため、特定の社会課題に偏らず、幅広い支援を行いたいと考えているからです。また、新型コロナウイルス感染症の拡大や能登半島地震などの災害が起こったときは、緊急支援にも対応しています。

**自分の名前が刻まれた
プレートに感激**

プランからの活動報告書を読むたびに、途上国への興味がさらに湧き、今まで知らなかった多くのことを学ぶことができました。未知の世界とつながる感覚があり、日本でただニュースを見ていただけでは得られない情報も手に入りました。例えば、女性性器切除(FGM)の問題については、支援に携わらなければ知ることはなかったと思います。

支援で完成した小学校の教室に、自分の名前を刻んだプレートが設置されたときには感激しました。自分の夢をかなえ、自分の足跡を残せることがうれしです。100万円は私にとっても決して小さな金額ではありません。支援をするのは即断でしたが、実際に振り込みボタンを押すときには、本当にこれで良いのかと正直逡巡しました。しかし、今は自分の夢や気持ちに素直になって行動を起こす勇氣を持って良かったと心から思います。



「日本の女の子の居場所」報告会を開催

国内支援事業グループは、2024年8月7日に報告会「女の子と若年女性にとっての居場所～『わたカフェ』の現場での気づきから」を東京・池袋にて開催しました。

豊島区長・高際みゆき氏、西武信用金庫理事長・高橋一朗氏、法政大学現代福祉学部助教・岩田千亜紀氏をお迎えし、行政、企業、アカデミアと、異なる立場から女性の支援の必要性について発言いただきました。「行政と民間が上手に連携して支援していくべき」(高際氏)、「女性をひいきしていると云われるが、それくらいしないと組織も社会も変わらない」(高橋

(左から)豊島区長高際みゆき氏、西武信用金庫理事長高橋一朗氏、法政大学現代福祉学部助教 岩田千亜紀氏



氏)、「自己責任論ではなく、社会の問題としてとらえて」(岩田氏)などのコメントが寄せられました。自治体関係者、民生委員、NPOスタッフ、企業関係者など、女の子や若年女性への支援に携わる方々、関心のある方々が参加し、

熱心に聴き入りました。

この報告会の様子は、下のQRコードから動画でご覧いただけます。

報告会の様子(動画)はこちら



ウクライナ避難民の就職をめぐる課題について調査レポートを発表

2022年2月24日のウクライナ紛争激化以降、日本に避難してきた人々は、日本政府、民間団体、民間企業からの支援を受けてきましたが、政府プログラムによる生活費の支援は、日本での滞在期間が2年に達した時点で終了します。そのため、経済的な自立が喫緊の課題となるなか、さまざまな障壁が彼らを就労の機会から遠ざけてしまっているのが実情です。

アドボカシーグループのアンナ・シャルホロドウスカー職員は、日本に避難してきたウクライナ避難民を対象に、アンケート調査とインタビューを実施し、レポートにまとめました。

レポートでは、避難してきた人たちが日本で仕事に就く際に直面する具体的な課題が浮き彫りになった一方で、就職できた女性たちへのインタビューから、就職成功の秘訣や、職場におけるコミュニケーションの取り方、日本語習得に対する考え方など具体的な事例を提示しています。アンナ職員は、すべての人が経済的に自立し包摂的な社会を実現するためにも、再認定制度の簡素化などの見直しが必要であるとまとめています。

レポートはこちら



今回発表されたレポート

国際教育協力を究めて若者が未来を切り開く助けに

P4-5でご紹介した「ロヒンギャ難民の識字教育」プロジェクトを担当する内海職員の仕事をご紹介します。

幼 いころから歴史が好きだった私は、就職活動もせずに史学に没頭しました。勉強に満足感を覚えたある日、これからの人生は教育の機会に恵まれない女の子のために捧げようと思い立ちました。それが支えてくれた家族や恩師への恩送りになるとも考え、国際教育協力の道に入りました。2019年11月、JICA専門家の仕事で南スーダンに赴任し、仕事と生活環境にも慣れ始めたころ、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が始まりました。2020年3月に一時帰国を終えて空港に向かう途中、南スーダンが国際線の乗り入れを制限したことを知りま

した。1年ほど日本から遠隔で南スーダン教育省と仕事を続けましたが、南スーダン時間に合わせて夜型で働く私と、日本時間で働く家族との生活リズムにすれ違いが生まれました。

家庭と仕事を両立するため、さまざまな可能性を検討した結果、柔軟な働き方ができ、私の専門である国際教育協力で実績のあるプラン・インターナショナルに転職しました。当初は、アフリカに戻れなかった喪失感から、アフリカの教育プロジェクトを担当したいと考えていました。

今は縁あって、バングラデシュで実施しているロヒンギャ難民の



識字クラスで学ぶ女の子と内海職員

今回紹介する人
プログラム部 内海摩耶 職員

若者向け識字教育を担当しています。識字教育では人間が社会で生きていく基礎となる読み書き・計算能力を養います。世界で最も迫害された民族と呼ばれるロヒンギャの若者たちが尊厳を取り戻し、未来を切り開く助けとなるプロジェクトに携わることは、私の新たなやりがいとなっています。

内海職員のある一日

8:00-9:30

出張時に入手したネパール産のコーヒーをいれて、BBCをはじめ各国の国際報道を確認。



9:30-10:00

在宅勤務開始。メール・チャットを確認、タスクの優先順位を決める。

10:00-12:00

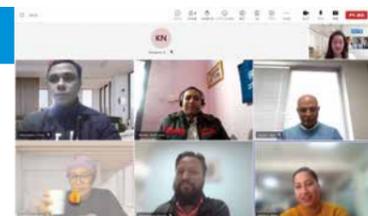
上司からフィードバックを受けた助成金申請書類を修正し、ドナー(政府や企業等の資金提供者)に書類を提出。

12:00-13:00

ランチタイムはお散歩をかねて近くのお弁当屋さんへ。お気に入り焼き魚。

13:00-14:00

バングラデシュのプロジェクトチームとオンライン会議。タスクを依頼。



14:00-15:00

バングラデシュのファイナンス、教育専門家、モニタリング評価専門家から個別の相談を受け、タスクの詳細や段取りを詰める。

15:00-18:00

ドナーからの問い合わせに対応するため、説明書類を作成。仕事の合間に地球儀をポーッと眺めて、一つの国や案件に集中しすぎないようにします。



18:00-20:00

家族と夕食。国際ニュースや報道番組を 시청視聴。

20:00-21:00

バングラデシュからの緊急の問い合わせに対応。朝イチで上司に確認を回せるように作成書類を最終化し、終業。

ACジャパンのポスター掲示にご協力いただけませんか？

プラン・インターナショナルは、公益社団法人ACジャパンの支援団体のひとつに選出され、2024年7月より無償広告枠での広告発信がスタートしています。テーマは「救われた人は、救う人になる。」です。活動を多くの方に知っていただくために、企業、学校、団体の皆さままで広告ポスターを掲示していただけない

か？
ポスターサイズはA2縦(42×59.4cm)、B3横(36.4×51.5cm)の2種類です。ご希望のサイズと枚数(最大5枚まで)、送付先(住所、電話番号、担当者名)をメールでご連絡ください。
Mail: library@plan-international.jp

A2サイズのポスター



プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか？

ウェブサイト | フェイスブック
上記アイコンのある会については、下のQRコードをご確認ください。

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先:
プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp



プラン支援者の会についてはこちらから

プラン群馬の会

国際交流の集い ブース出展

- 日時：10月13日(日) 11時～15時
- 会場：ピエント高崎 高崎市問屋町2-7
- 内容：プランの広報、水汲み体験、缶バッジ制作などを予定しています。国際色豊かなステージや飲食ブースもあります。ぜひ遊びに来てください。
- 参加費：無料
- 連絡先：星野

プラン多摩の会

国際ガールズ・デーに関する職員報告会(予定)

- 日時：10月19日(土) 14時30分～17時(14時受付開始)
- 会場：立川市子ども未来センター 201会議室 立川市錦町3-2-26
- 内容：職員報告会(国際ガールズ・デー関連)
- 参加費：無料
- 申し込み：不要
- 連絡先：矢島 tama-web3@ngo-ngo.org

プラン・奈良の会

ミャンマー料理教室

- 日時：11月10日(日) (予定)
- 会場：生駒市北コミュニティセンター 調理室(予定)
- 内容：ミャンマー料理教室
- 参加費：1,000円(予定)
- 定員：約20名 ※奈良の会の会員を優先いたします。
- 申し込み：要
- 連絡先：富山

プラン名古屋の会

チャイルド訪問報告会

- 日時：11月24日(日) 13時～16時
- 会場：ソレイユプラザなごや12F研修室 名古屋市中区栄1丁目23-13
- 内容：9月に東ティモールのチャイルドを訪問予定の支援者(東海地区在住)による報告会とフリーディスカッション。
- 参加費：500円
- 申し込み：要(当日参加も歓迎)
- 連絡先：久世 plan.nagoya.party@gmail.com 080-6952-3170

PLANサポーターズ(札幌)

「北海道国際協力フェスタ2024」ブース出展

- 日時：12月7日(土) 11時～17時(開催時間は予定)
- 会場：札幌駅前通地下広場チカホ 北3条交差点広場
- 内容：北海道のNGOが集まる年に一度のイベントに出展します。「ゴールできない(?)すくろく～ガールチャ村に生まれたら」へのチャレンジお待ちしております。当日ボランティア募集中。
- 連絡先：松澤 namaskar@jcom.home.ne.jp

領収証明書をお送りします

確定申告にむけ、
2025年1月下旬にお届けします

皆さまの寄付金は、「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方法を選択し、確定申告することにより、一部税金の控除を受けることができます。最大約4割が還付されますので、ぜひこの機会にご活用ください。

住所や名前が変わっていたら、
早めのご連絡を！

ウェブサイトの問合せフォームおよび電話(03-5481-6100)にて、ご変更内容をお知らせください。2024年12月25日(水)までのご連絡分は、1月下旬発送の領収証明書に反映させていただきます。

クレジットカード、コンビニ送金の
受領日について、ご注意ください

領収証明書には、プランの受領日が1月1日から12月31日までのご寄付を記載いたします。プランの受領日とは、クレジットカードやコンビニ決済の決済日/振込日ではなく、プランに入金された日付となります。このため、11月下旬以降のクレジットカード、コンビニでのご寄付は、2024年の領収証明書に含まれず翌年2025年の領収証明書に含まれることがあります。

問合せフォームは
こちら



ハガキにてお届け。申告時まで大切に保管してください(画像はイメージ)

今年も全国のイトーヨーカドー・ヨーク店舗で募金を実施

株式会社イトーヨーカ堂は、2024年9月1日(日)から3カ月間、全国のイトーヨーカドー・ヨーク店舗で「地域主導型の小学校給食(カンボジア)」のための募金を実施しています。カンボジアの農村部では貧困のため空腹のまま登校し、授業に集中できず中途退学する子どもが少なくありません。プ

ランは子どもたちが学習効率を上げ小学校を終了できるよう、学校給食支援のための活動を行っています。集められた募金は調理室の建設、学校菜園の導入や運営などの取り組みにあてられます。店頭にお立ち寄りの際はぜひご協力をお願いいたします。またセブンマイルプログラムWEB募金も同時に行っています。



店内ポスター

インド映画「花嫁はどこへ？」にプランの職員がコメントを寄せました

2024年10月に全国公開の映画「花嫁はどこへ？」にプランの平田職員がコメントを寄せました。インドの人気俳優アミール・カーンが製作を手がけ、ひよんなことから取り違えられた2人の花嫁の思いがけない運命のいたづらを描いたヒューマンドラマです。「ベールによって、姿形だけでなく胸の内にある思いまでも覆い隠して嫁ぐ2

人の花嫁。小さな冒険を通じ、自身の中にある可能性に気づき、自らの意志で一步を踏み出す姿は、全ての女の子の背中を後押ししてくれるはず！」

2024年製作 / 124分 / G / インド
原題：Laapataa Ladies 配給：松竹
劇場公開日：2024年10月4日
@Aamir Khan Films LLP 2024



合同出版「ジェンダー・ディスカッションブック SDGsで学ぶ! 性別格差がない未来」を出版

ジェンダー平等教育の重要性が認識されつつあるものの、正しい知識を得る機会が限られてしまっているのが現状です。本書は、小学生から使える内容に

なっており、参加者がイラストと質問を見ながらディスカッションをしていく形式のため、進行役がいれば誰もがどこでもお使いいただけます。

著者：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 発行：合同出版株式会社 出版年月日：2024/08/07 判型・ページ数：B5・136ページ





プラン・インターナショナルの活動地域から

さまざまな国や地域で紛争が相次いでいます。

プランは、紛争に巻き込まれた人々に対して人道支援を行うとともに、子どもたちが安心して過ごせる場所の提供や、教育を続けられるように支援を行っています。現地の女の子たちの様子を写真で紹介いたします。

Chad



友だちと学ぶスーダンの女の子たち

チャドの国境近くの難民キャンプには、スーダンから避難してきた人々が身を寄せています。プランは現地パートナーと協力し、キャンプ内に仮設の学習施設を設置・運営しています。



Bangladesh

15歳で結婚して母になった女の子

コックスバザールの難民キャンプには約40万人の子どもたちが生活しています。プランはロヒンギャの人々を支援するため、教育、子どもの保護などさまざまなプロジェクトを実施しています。

Haiti



ダンスを披露する女の子

ハイチでは、ギャングによる暴力が蔓延し、家族の離散や学校の閉鎖が相次いでいます。プランは「子どもひろば」を運営し、癒し、遊び、学びの機会を提供しています。

Palestine



仮設病院に横たわる女の子

ガザ北部に住む女の子は、自宅が爆撃され、一命はとりとめたものの、足を切断しなければなりません。プランは現地パートナーと協力し、ガザ地区で緊急支援を実施しています。



Mozambique

仮設の学習施設で学ぶ女の子

モザンビーク北部は武装グループの攻撃により、5年間にわたり人道危機に陥っています。200以上の学校が閉鎖されたカボ・デルガド地方で、仮設の学習施設を設置・運営しています。

Moldova



「プレイバス」で遊ぶ子どもたち

ウクライナからモルドバに逃れてきた母親や子どもたちに、「プレイバス(移動式遊び場)」を提供し、安全な場所と心理士とのセッションなどを提供しています。

プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中!



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

腫に生きる強さを感じるロヒンギャ難民の女の子。2017年から、バングラデシュの難民キャンプで暮らしています。12歳のときに祖母は彼女を結婚させようとした。彼女は結婚すれば教育も受けられなくなると思い、抗議しました。「勉強も好きだし友だちと遊ぶのも好き。結婚したら、このままではいけないと思ったんです」

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース127号 アンケート